【葛原Ｉ】　　中川きしえ　さん（８４才）

昭和２０年１月、２月に入るとちょいちょい空襲がありました。

２月６日、守口の６番であった通夜に行った時にあり、３月１０日には大阪市内に大空襲がありました。

紀伊水道より侵入…と放送があると、すぐ何百機もの編隊で来るのでその爆音はすごかった。

大阪市内の空襲なのに、私らの村も昼日中でも真っ暗になって灰が降って来るんです。

それに艦載機も飛んできました。

Ｂ２９のように大きくはないが、急降下して低空でバンバンと機銃掃射をすると、すうーと上がって行くので、こっちもうかうかしてられない。

私は菅原神社に逃げて動かないでいれば目立たないだろう、と思って、筵を被ってじっとしていると飛行機は通り過ぎて行き、やれやれ一安心、と家に帰ったこともありました。

５月末頃になると、毎日田んぼへ行って農作業に精を出さねばならないけど、警戒警報が鳴るとぼちぼち退避しなければ、と思うが、空襲警報が鳴るまではすぐだから早く帰ろうと言われて、畑仕事を放っておいて帰ったものでした。

６月１５日は空襲があるかもしれないと、朝早くから麦刈りに田んぼへ行ったが、８時頃に空襲警報が鳴って飛んで帰りました。

家に着くちょっと前にザーザーザーと焼夷弾の落ちる音がしたのでその方を見ると、キラキラキラと濃い緑色のような銀色のような焼夷弾が落ちてきた。

なぜあのような色に見えたのか、よくわからないけど、おそらく気が動転していたのかもわかりません。

自分の家が燃えているんです。

家には燃えやすいものばかり取り込んでいました。

菜種、麦、小麦、屋根裏には藁をいっぱい積んでいました。